

ふろたん年表 NO.4

(76)2021年1月22日 核兵器禁止条約発効～

(82)2023年5月22日 小説「その日から…」発行

2021年1月22日 核兵器禁止条約発効

「被爆者忘れ去られることない」

23日の毎日新聞夕刊の見出しに載せたカナダ在住の被爆者サーロー節子さん(89)の言葉



昨年10月24日に核兵器禁止条約批准国・地域が50に達し、90日後の発効が決まっていた核兵器禁止条約が1月22日にスタート、推進する国が主催したオンラインイベントに寄せたサーロー節子さんのビデオメッセージ。

「被爆者がもう忘れ去られることはない。世界中の人々との絆を感じる。最終ゴールに向かう最初のステップだ。核兵器の完全な廃絶を達成するまで私たちを見守っててください。未来の世代のために私たちの取り組みは続く。」

唯一の戦争被爆国でありながら核の傘に依りし批准も署名もしていない日本、核なき世界へ向かってどのような道を歩むのか？

2021年2月1日 ミャンマー軍事クーデター



ミャンマー平和的解決を クーデター日本から憂える声

2011年の民政移管から10年、2月2日の毎日新聞の記事で日本在住のミャンマーの人たちがアウンサンスーチーさんの写真を掲げて国軍のクーデターに抗議の声をあげています。

昨年新春インタビューでインパール従軍から今泉ビルマ記念奨学会活動の話まで、今泉清詞さんと一緒に話し合っていたいたいたミンガラバー・ユネスコクラブのティティレイさんの国軍クーデターを懸念するコメントも載っています。

1948年のビルマ独立、軍事政権から2016年の文民政権発足までの苦難の道を歩んできたミャンマーです。民主化のあゆみを阻んで軍政時代への逆戻りすることは誰も望んでいないでしょう。

2015年11月の総選挙の直後に遠征したピクトリア山第3次隊は、報告レポートに「政権移譲を拒む軍政府に不安を抱きながら現地入りしたが全くの取り越し苦労であった。誰もが民主化開放に向けた勝利を静かに受け止め発展を信じているようで、この国の活力に未来を感じた」と書いています。

2021年2月26日国連総会ミャンマー国連大使

26日の国連総会で国軍のクーデターを非難し、市民が抵抗の象徴として使っている3本指を立てるポーズ取ったチョー・モートゥン氏、「クーデターを今すぐ終わらせ、罪なき人々への抑圧をやめさせ、国家権力を国民の手に取り戻し、民主主義を回復するために、終結させるため、私たちは国際社会の最も強い行動を必要としている」と訴えた。



27日ミャンマー国軍はチョーモートゥン国連大使を解任したと発表。

チョー・モートゥン氏は、抵抗を続ける考えを明らかにし、国連関係者によると、米ニューヨークの国連本部は政権交代についてミャンマーから通知を受けておらず、軍事政権を同国の政府とは公式に承認していないため、現時点でミャンマーの国連大使はトゥン氏のままとされている。

ビルマの時代から深いかわりを持ってきた日本、今こそ果たすべき役割があるのでは！

2021年6月8日付ふろたん通信NO.39

「**ミャンマーの支援活動について一緒に考えましょう!**」と書いた3本立ての記事になりました

5月18日「ミャンマーの平和を願う写真展」ビルマ応援の会

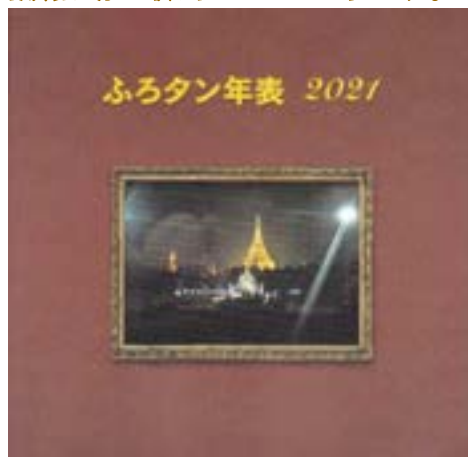
5月18日～21日鎌倉のカトリック雪ノ下教会で開催されたアウンサンスーチーさんと家族の写真展に、初日のオープニング時間に出掛けビルマ応援の会代表の宮下夏生さんにお会いしました。ビルマ応援の会は2007年11月6日発足宮下さんは英国留学中の1980年ごろスーチーさんと出会い現在まで親交を続けている方です。5月3日のホームページには代表自らがミャンマー軍人に対する抗議のメッセージを載せています。



5月25日「ふろたん年表2021」初版発行

1973年3月16日の日本住宅公団ワンダーフォーゲル同好会の誕生からスタートし、2013年3月のピクトリア山登山を経て、2014年6月のNPO法人設立後の活動記録や新型コロナ緊急事態宣言下で発信されたふろたん通信なども年表にして掲載、最後のページは2月1日のミャンマー軍事クーデターで終わっています。

ふろんていあタウン工房が、ミャンマー軍事クーデター後の民主化市民運動を支援する資金として販売収入のすべてをミャンマーに届けるという出版事業ではない新たな出版活動に取り組んでいる本です。



6月5日「ミャンマーは今私たちにできること」ミンガラバー・ユネスコクラブ

ミンガラバー・ユネスコクラブから届けられたチラシメールには「軍によるクーデター以降4ヶ月近く経過し、今ミャンマーはどのような状況に置かれているのでしょうか。日本国民として出来ることを考えていく会を企画しました」と書かれていました。会場の高円寺カフェぼれやぁれに伺いました。安彦さんの開会挨拶の後、国軍の拘束から解放され5月4日に帰国したばかりのジャーナリスト北角裕樹さんとシャン州出身のミャンマー料理店「ゴールデンバガン」店主モモさんのお話を伺う会が行われました。



2022年1月17日付ふろタン通信NO.41で2022年からふろタン工房本部が 渋谷区恵比寿から江東区新大橋に移ることが伝えられました

通信41号に載せた《**2021.11.9のびるまの豎琴からの電話**》で、佐野貴美代さんの連絡で訪れた恵比寿のミャンマー料理店「びるまの豎琴」の入り口には「**20年8カ月続けてきた店を閉じます**」という店主モーココさんから顧客の方々へのお礼の張り紙が張られていたことを伝えています。

「びるまの豎琴」がふろタン工房の本部になったのは2021年からですが、付き合いは古く、2013年9月21日のふろんていあタウン工房の設立発起人総会は店のテーブルを並べて行いました。2017年9月には、「びるまの豎琴でビルマの豎琴」というテーマで「昭和」の林茂雄さんと一緒にモーココさんへの第8回ふろタンインタビューも行っています。



2022年12月6日付ふろタン通信45号は「二都研」と「都市創生研」の報告号 二つ並べて 特集を組むのは2020年2月の通信34号以来ですと書いていました

「二都物語研究会」通称「二都研」は、2012年3月のミャンマーの建設省視察団7名の来日がきっかけになって第1回が2012年9月12日にスタートした研究会で、入江三宅チーム・URリンケージチーム・URJICAチーム・開構研チームの4チームの輪番制で2022年11月18日の第43回まで行われています。

「都市創生研究会」通称「創生研」は、2011年3月11日の東日本大震災から1年を迎えようとしていた2012年2月に被災地の復興に取り組んでいた都市計画コンサルタントの有志が復興に役立てる具体実践的なプラづくり取り組みとう立ち上げたのが「復興都市研究会」「復興まちづくりレポート2017」を全日本土地区画整理士会会報に掲載し東日本大震災復興の一段落後、「地方都市活性化のあり方」を研究するため「復興都市研究会」の名称を「都市創生研究会」に切り替えメンバーはそのままで活動を開始しました。事務局は半蔵門にある都市計画コンサルタント昭和で、座長はスタート時から一貫して松村忠雄さんが勤めています。創業100周年を目指す昭和(株)にはお父上がインパールの行軍から帰還された方がお二人もおられます。新型コロナウイルス蔓延で研究会活動中断が続く2022年10月17日、松村さんから各メンバーに研究会のこれからを尋ねるメールがありました。そして10月24日には研究会解散のメールが届き、そこには次のように書かれていました。

「長い間のご協力ありがとうございました。今後につきましては研究会仲間として折角できましたご縁を継続していきたいというご意見も多くありましたので懇親会的な形で気軽に談論できる会合を続けていきたいと考えています」



「二都研」多摩ニュータウン



「創生研」湯河原

森づくりを夢みる乙女の物語 小説「その日から…」

「森に親しむにはね、自分の好きな樹とか草花を決めておくのもいいね。その植物に関心を持つと、名前だけじゃなく、もっとよく知りたくなる。いろいろ調べると、その仲間の樹とか、昆虫、野鳥、他の動物との関係なんかも出てくる。どんどん面白くなる」

「はあ、そうですか。Aさんの好きな樹ってなんですか」

「そうだね、俺が一番好きなのはハルニレかな。樹形がいい、幹が真っ直ぐに立って枝のバランスが良くて、形がすっきりして非常にいい。アイヌの人達は『森の女神』として

崇めていたそうだね」

第1部 森づくりグループ『メイプル』

第2部 『森を知る・森に学ぶ・森で遊ぶ』

第3部 メイプルの定例活動計画

そして『夢』

その日から…

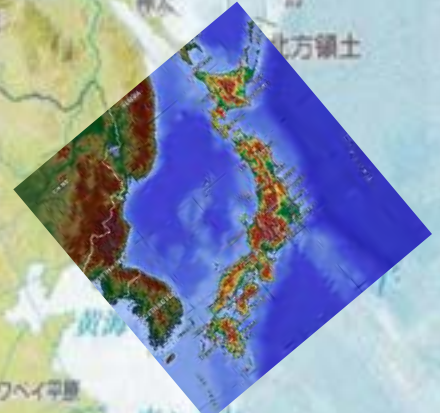
北海道北広島市の
森づくりを夢みる乙女の物語

青柳 志郎




ミャンマーと日本の国のカタチ

ミャンマーも日本も南北に細長く、面積はミャンマーが日本の倍で人口は日本の半分くらい。日本は中央部を背骨のように山脈が通っている島国。ミャンマーは海に張り出した南の部分を除くと中央を流れるイラワジ川(エーヤワディー川)をよりどころとして発展してきた国、最北端のカカボラジ山をピークにして、東西両側は中国・タイ・インドなどの山岳地帯に接している。



不思議なくらい対照的な凹凸なカタチで思わず重ね合わせてみたくなる。ミャンマーと日本！地球が出来上がった時から、お互いに補い合い協力し合って生きることが約束された間柄の国なのでは！！



「特定非営利活動法人ふるんていあタウン工房」は
目的を共有する人たち・団体の方々との協力・連携ネットワークづくりを進め
「山と共に生きる地域づくり」に「愚公移山」で取り組みます

2023年5月版

END

ミヤンマー